

# 令和4年度地域運動部活動推進事業

## 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	名古屋市教育委員会 担当課：生涯学習部部活動振興室 電話番号：052-972-3265
------	--

### 1. 事業の概要について

#### 1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	110校（分校含まず）	② 生徒数	50,552人	③ 部活動数	1,083部活
--------	-------------	-------	---------	--------	---------

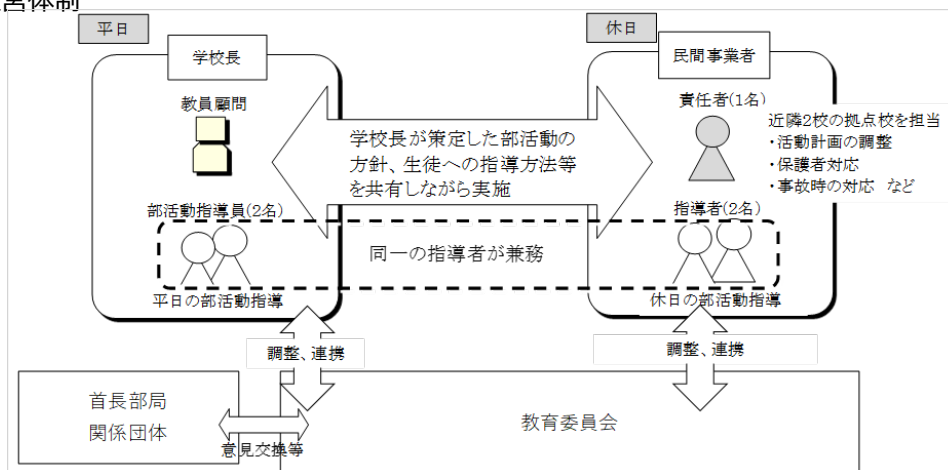
#### 1.2 地域における現状・課題

- ・本市では学校における働き方改革に向けた取り組みとして、中学校における部活動外部顧問制度（部活動指導員）の拡充や、小学校における新たな運動・文化活動の実施に取り組んでいる。
- ・教員の時間外在校時間数の縮減に取り組んでいるものの、本市中学校の運動部活動では、生徒指導や安全管理、保護者対応等の理由から、正規の教員が顧問に就いている状況がある。
- ・令和3年度地域運動部活動推進事業では、原中学校の休日部活動を、外部人材が指導を行うと共に、教育委員会担当課職員も怪我等の緊急時対応が取れる体制とした。
- ・今後、休日部活動を拡大する場合、中学校全110校・約1,000部において怪我等発生時の対応を含めた部活動の管理運営を教育委員会担当課が担うことは難しく、また、受け皿となる地域スポーツ団体についても量的に存在しない。

#### 1.3 実践研究における取組目標

- ・国における令和5年度以降の休日部活動の段階的な地域移行の方針に基づき、拠点校の休日部活動について、民間事業者による部活動の管理運営の可能性について研究を行う。
- ・実施期間：令和4年9月～令和5年2月 活動頻度：土日いずれか1日3時間（月12時間想定）

#### 1.4 実践研究の運営体制



### 2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

- ・首長部局関係者、教育委員会関係者、学校関係者（校長、教員、保護者）による検討会議の開催により、本市の現状を整理し、今後の見直しの方向性を検討した。（作業部会含め計4回）
  - 本市の現状
    - ・部活動数、生徒参加率の減少
    - ・地域人材、受皿の不足
    - ・部活動とは別種目への生徒ニーズや別種目指導者の存在の可能性
  - 見直しの方向性
    - ・行政や地域団体など、様々な主体による活動機会の確保
    - ・活動内容の多様化、多層化
    - ・地域団体・人材のノウハウ活用や組織化 等

### 3. 実践研究校における取組について

#### 3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	域内全 110 中学校のうち、2 校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	2 部活
③ 種目	バスケットボール

#### 《主な取組例（1）》…名古屋市立原中学校

① 運営主体	リーフラス株式会社		
② 種目	バスケットボール	④ 参加者数	16 人
④ 活動日	土曜日または日曜日	⑤ 活動場所	実践研究校体育館
⑦ 指導者人数	2 人	⑧ 謝金単価	1 人あたり 1,850 円/時間
⑨ 指導者属性	平日の部活動指導員 2 名を民間事業者の指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収なし		

#### 《主な取組例（2）》…名古屋市立平針中学校

① 運営主体	リーフラス株式会社		
② 種目	バスケットボール	④ 参加者数	42 人
④ 活動日	土曜日または日曜日	⑤ 活動場所	実践研究校体育館
⑦ 指導者人数	2 人	⑧ 謝金単価	1 人あたり 1,850 円/時間
⑨ 指導者属性	平日の部活動指導員 2 名を民間事業者の指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収なし		

#### 3.2 参加者の声

##### ・ 生徒

##### 今回の取り組みに対する評価（4 段階）

区分	人数	割合
よかった	18 人	40.9%
まあよかった	24 人	54.6%
あまりよくなかった	2 人	4.5%
よくなかった	0 人	0%

##### 主な意見

安全に楽しく部活動を行えた／適切な指導をしてもらえた／ケガの対応がよく、安心できる／欠席連絡が QR コードで入力するだけなので便利でよかった／学校管理の救急箱と事業者管理の救急箱を使い分けるのが面倒だった

##### ・ 保護者

##### 主な意見

教員の負担が減るといって大変いいこと／学校の教員でない大人と接する良い機会になると期待する／普段のコーチが引き続き指導してくれたので、子どもたちも迷いなくありがたい／トラブル（ケガ）時に責任者からすぐに連絡をいただき、説明詳細をきくことができた／親子ともに外部委託に不安を感じることはなかった／土日欠席の連絡がインターネットからでき、利便性が高い／平日と休日の指導者が全く異なってしまうのは、方向性や指導法で子どもが混乱すると思うのでやめていただきたい／外部の指導者は良いが、指導の方向性に統一性を持たせてほしい／窓口がひとつになってくれるとありがたい

##### ・ 学校

##### 主な意見

（管理職）教員の負担軽減になった／平日と土日の練習の指導の連続性が大切／平日と土日の指導者が異なる場合、教員顧問との指導の違いなどからうまくいかなかったのではないかと考える／練習試合ぐらいならば、民間委託による指導も可能であると感じたが、公式戦は教員顧問が必要／鍵の管理（スペアキーの作成）が必要／教員顧問がいない中で大きなケガがあったらきちんと対応できるかいつも心配だった

（教員顧問）土日に自分の時間ができ心身のリフレッシュになった／大いに負担軽減になった／学校と指導者の間に運営事業者が入ったことで、手厚い指導になったと感じる／責任者がいてくれることは心強かった／業務委託の形態をとって

いるため急な日程変更が難しく、練習試合の日程調整が難しかった／土日だけの指導者が来た場合は、綿密な打合せが必要であると感じた

### 3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

#### ・ 平日指導と休日指導の一貫性や学校との連携協力

平日の部活動指導員を休日活動の指導者として配置した。また、指導者とは別に運営事業者において責任者を配置し、学校と情報共有や各種調整を行った。責任者は活動時に現場を巡回し、指導方法などのフィードバックを行うことで、指導力向上に努めた。当初は休日部活動に対する教員顧問との意識の差があり、スケジュールなどの調整がスムーズにできないこともあったが、責任者が教頭や顧問と連絡を取り合うタイミングや方法を明確化することでスムーズな連携を進めた。

#### ・ 安全管理

令和3年度は1名配置とした指導者を各部2名配置としたことで、緊急時の個別対応と活動全体への対応が可能となった。また、運営事業者による事前研修や、緊急時対応の事前確認を指導者に実施することで、安全対策を図った。

#### ・ 保護者連絡

出欠連絡システムの活用や専用窓口の設置により、保護者との円滑な連絡・相談体制を構築した。

## 4. 実践研究の成果と今後の課題

### 4.1 実践研究での検証から得た成果

本検証においては、平日と休日の外部指導員を同一とすることで、運営主体を民間事業者としてもスムーズな部活動運営を行うことができた。また、運営主体による指導者研修や、保護者への専用窓口設置により、きめ細やかな対応も可能であった。

しかしながら、休日の活動を平日と連続した部活動と捉えようと、指導の連続性への不安の声は、学校・保護者共に上がっており、学校管理者としては安全管理状況も常に意識している状況となっている。また、市内全110校・約1,000部において本検証と同様な休日活動を実施するためには、平日・休日共に指導のできる外部指導員が必要だが、量的に存在しない。さらに、大会や練習試合は主に休日に開催されるが、平日に指導する教員顧問と運営事業者との役割分担を整理する必要がある。

従って、休日活動と平日部活動は連続した同一の活動と捉えず、部活動とは異なる生徒の活動機会を休日に実施していくことで、これまで部活動に参加していなかった生徒も対象に含め、より多様な活動機会を展開できるよう検討していく必要がある。

### 4.2 地域移行における今後の課題と対応

・令和5年度は生徒や地域団体等への調査を進め、部活動とは異なる活動のモデル事業を実施し、有識者への意見聴取を経て、本市の方針を決定するとともに、制度設計に向けた詳細な検討を行う。

#### 【制度設計に向けた検討事項内容】

- ・地域団体・指導者の確保、育成策
- ・資格・研修制度等の指導者の質の担保
- ・教員の兼職・兼業の範囲、要件
- ・休日活動の発表機会
- ・新たな学校開放の手法検討（営利活動への使用許可の検討含む）
- ・受益者負担、困窮家庭への支援
- ・制度周知、官民連携の促進のための広報